

# 新世界 富田伊織 作品展

# 『透明標本』

New World Transparent Specimens/Iori Tomita©

現在、狭山市立博物館では、国内外で活躍する透明標本作家・富田伊織さんの作品展を開催中です。標本作品や写真作品など、300作品以上をさまざまな展示方法でご覧いただけます。狭山市出身の富田さんに、幼い頃のエピソードや透明標本に興味を持ったきっかけ、作品展の見どころなどについてお話を伺いました。

- 会期 9月23日(祝)～11月27日(日)
- 開館時間 9時～17時(最終入場16時30分)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)
- 料金 一般300円、高大生200円、中学生以下無料  
※11月14日(月)は県民の日のため入館無料

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



SDGsの関連アイコンを特集ページに表記しています

## 透明標本とは…

はちゅう  
爬虫類や魚類などの生物を特殊な薬品に浸すことで、たんぱく質を酵素によって分解し、肉質を透明に、硬骨を赤紫色、軟骨を青色に染色する骨格研究の手法をベースに作られたもの

## 原点は狭山市の自然環境

幼い頃からとにかく生き物が大好き。父親とよく入間川へ釣りに出かけ、釣った小魚を飼い、飽きることなくずっと眺めていました。少年野球チームに入っていました。ボール拾い中に隠れて川の魚を眺めていたこともあり。放課後は富士見小学校の向かいにあった雑木林で友達と虫を捕り、休日は両親と智光山公園なども動物園へ行くなど、狭山市の自然環境が大人になった今でもぶれない「生き物が好き」という気持ちを育ててくれました。

## 透明標本との出会い

大学2年生の時、授業で研究用の透明標本を見て衝撃を受けました。「自分が普段見ている生き物がこん

な姿になるなんて」と。初めて見た透明標本に「きれい！欲しい！自分で作りたい！」と思ったことが、透明標本を作り始めたきっかけです。

## 会社員を辞め、漁師見習いに

大学在学中に見よう見まねで作りはじめ、「もっときれいな透明標本を作りたい」と試行錯誤しながら、独自の手法を生み出していきました。卒業後は都内の一般企業に就職。少しの間、透明標本からは離れた。その後、仕事を辞めて大学のあった岩手県へ戻り、知り合いの漁師さんの下で見習いとして働く傍ら透明標本の制作を再開。自分はやっぱり生き物



が好きなんだなあと感じました。  
**透明標本作家としてのスタート**

この時は、作品の写真をSNSに投稿していたのですが、そこで「作品をデザイン系のイベントへ出していないか？」と声を掛けていただきました。世間の方々が透明標本にどのような印象を抱くのだろうかと不安でしたが、イベント当日、ブースは人だかりができるほどの大盛況。「自分の大好きな透明標本は、みんなも同じように好きなんだ」と感じ、生業なりわいにしてみようと、「透明標本作家」としてスタートを切りました。

**透明標本は「生き物」**

私の作品は研究用の標本とは異なり、「自分の思う生物の美しさ」を探究したものです。色合いや透明感を



とみた いおり  
**富田 伊織さん**

狭山市出身。北里大学水産学部在学中に研究用の透明骨格標本に魅せられ、独自に制作を開始。卒業後は一般企業に就職するも、大学のあった岩手県へ戻り、漁師見習いをしながら透明標本制作を続ける。2008年5月に透明標本作家として活動を開始。各種展覧会をはじめ、写真集の出版や講演会など、透明標本をテーマに活動の場を広げ、国内外で注目を集めている。

**最近の展覧会:**角川武蔵野ミュージアム(2020年)、サンシャイン水族館(2021年)、さいたま市青少年宇宙科学館、秋田県立美術館(2022年)

**企画展で味わえる、生き物と芸術の融合**

引き出すために、メダカほどの小さな生き物でも半年以上の時間をかけて制作しています。その過程では、作品となる生き物が捕食した生物などの個体の生きざまを感じますね。自分にとって、透明標本は「生き物」なんです。生き物は生きている姿が一番かっこいいし、きれいだけれど、それだけでは見えない世界もある。その世界を作品たちを通して「やっぱり生き物ってすごい！」と感じてもらえたら嬉しいです。

今回の企画展では、1階は標本の作り方のパネルなどを設置した解説エリア、2階は透明標本と光が織りなす幻想的な空間を楽しめるエリア

になっています。エントランスには、「さやまの自然に棲すむ生き物たち」の標本をまとめて展示しているコーナーもありますよ。さまざまな展示方法で、作品たちの美しさを体感してもらえたらと思っています。

狭山市立博物館は、小さい頃に学びの場として何度も訪れた大好きな場所の一つ。生まれ故郷で自分の好きなものを見ていただけるとは本当に嬉しいです。作品を通じて、自分が透明標本を初めて見た時から今なお感じ続けている「生き物ってすごい！」という気持ちを、皆さんにも感じてもらえたらいいなと思っています。



**博物館の工作教室**

**秋のまいまい体験講座**

人気の砂絵をはじめ、スライムを使った工作ができます。

**日時** 会期中の土・日曜日、祝日、11月14日(月)

①10時30分～11時45分

②13時30分～14時45分

**参加費** 200円

問合せ 博物館へ ☎ 2955-3804